

変化するダーク・ファンタジーの社会学

——漫画「進撃の巨人」に共鳴する女性たち

松井菜々子

本論文は、マンガ『進撃の巨人』の読者を対象として、「ダーク・ファンタジー」に対する社会認識の変化を明らかにする。少年漫画と少女漫画という言葉があるように、読者対象としてジェンダーが意識されている。

この論文では、ダーク・ファンタジー漫画を「少年誌または青年誌に掲載している。かつ、女性読者が残酷な描写が多く全体として絶望的な状況の世界観を持つと感じている作品」と定義する。

なぜ、ダーク・ファンタジー漫画が娯楽として女性の選択肢に上がるようになったのだろうか。この論文では、2013年のアニメ化をきっかけに流行を起こしていたダーク・ファンタジー漫画『進撃の巨人』を例に研究する。

『進撃の巨人』は、連載当初はブログなどを中心に「漫画読み」に注目されていたが、2013年のアニメ化以降女性ファンが急増したという。少女漫画のようなキラキラした世界観や恋愛はなく「巨人」というモチーフに、おおよそ女性に受ける要素はないと考えられた。別冊少年マガジンという創刊して間もない少年誌において、女性ファンが大勢つくことは、そこに何かしら意味があると考え本論文は『進撃の巨人』に注目する。

第一章ではまず、『進撃の巨人』が社会に与えた影響について考察する。アニメ放送前と後。物語が大きく転換した時など、ファン層や知名度が大きく変化するタイミングがあった。また、様々なスピンオフ作品やアニメ以外のメディアミックスについても検討する。(第1章)。第二章では、雑誌などでの特集やインタビュー、企業とのコラボレーションを分類し、時期に注目して考察する。他メディアでの取り上げ方など、同出版社のファッション誌等での特集を参照する。なかでも、大きく特集が組まれた女性誌と生活雑誌について、物語・世界観・キャラ・声優などの8つの分類に基づいて特集内容を分類する。また、作者や担当編集のインタビュー記事からわかる物語における性の描き方や女性読者についての発言も考察する(第2章)。さらに第三章では、元々ダーク・ファンタジー作品を読まなかった女性ファンへの調査結果から、彼女等がどのように『進撃の巨人』を「読んだ」のかを明らかにする。女性に人気のキャラクターから導ける女性から支持を得るキャラクターの特徴や進撃の巨人女性ファンに魅力や好きになったきっかけ。読む前はマイナスのイメージを持っていたながらも何故読み始めたのか等も調査し、第2章の結果とも照らし合わせ考察する(第3章)。

本論文では、「努力」といった既に受け入れられてる漫画の要素を含むこと、そこに目新

しさを入れたことでジェンダーや作品のモチーフ・世界観に囚われず女性読者を惹きつけると結論づけた。これは、「絶望的状况」の作品を読むことでその人自身に変化をもたらし、今まだ一般的ではないジャンルや全く生まれていない考え方を、どのように広め生き残っていくかという課題の解決にも役立てそうだ。